

8つの領域で予防対策

- 8つの領域別対策部会
- ① 自殺予防
 - ② 交通事故予防
 - ③ 高齢者の安全
 - ④ 防災
 - ⑤ 暴力・虐待予防
 - ⑥ 子どもの安全
 - ⑦ 労働の安全
 - ⑧ 余暇活動の安全



部会の構成員は市、県、消防、警察などの行政機関のほか、安全に関する活動を行っている団体の代表者です。分析を基に課題を導き、解決策を模索し、対策の設計図となる外傷予防プログラムを作ります。多様な人が集まる対策部会での議論は、セーフコミュニティ活動の核ともいえます。

議論の中、認識された課題や解決策は、外傷予防プログラムとして実施するほか、それぞれの組織や団体に持ち帰って従来からの活動に生か

みんなで安全・安心なまちづくり

安全・安心なまちづくりのため、5年前に始めた取り組みは、世界認証を得て「安全の向上」を合言葉に組織の垣根を越え、多くのかたがたと連携し活動の輪を広げました。

今、認証の更新時期を迎えて、これまでのセーフコミュニティとしての道のりを検証しながら、より住みよいまちづくりを目指し、関係者は一丸となって取り組んでいるところです。

予防対策は、地域や一人一人の住民に浸透することが大切です。セーフコミュニティは、人と人がつながりながら、安全という生活の質を高めるまちづくりなのです。

「今日も無事でいてほしい」

これからもセーフコミュニティの一員として、みんなが安全・安心なまちづくりを目指しましょう。

セーフコミュニティについてお気軽にお問い合わせください。

問まちづくり支援課 ☎ 6777

します。必要であれば他団体と連携して対策を行います。解決策を実施する主体がない場合は、部会員が自ら計画を行うこともあります。

認証以前は交流のなかった諸組織は「安全の向上」に取り組みパートナーとして幅広い連携関係を作り出しました。

対策部会は常に、市民の立場で、市全体の外傷予防を考えて活動しています。

各種の予防対策は、行政だけでなく、団体、地域、ボランティアなどによって、市民の身近なところで行われています。

対策活動を振り返る

予防対策は、実施して終わりではなく、必ず振り返りというものがセーフコミュニティの約束です。振り返るとは、活動の効果を測定し、評価することです。評価の指標は3段階あり「市民の認識」「市民の行動」「市民の状態」がどう変わったかというもので、変化を測る方法も自分たちで考え、評価する作業を行います。その評価は今後の活動に生かされま

確かな分析に始まり、対策を実施し、振り返る。この循環の仕組みこそセーフコミュニティであり、「安全の向上」に向けて歩き続ける原動力です。

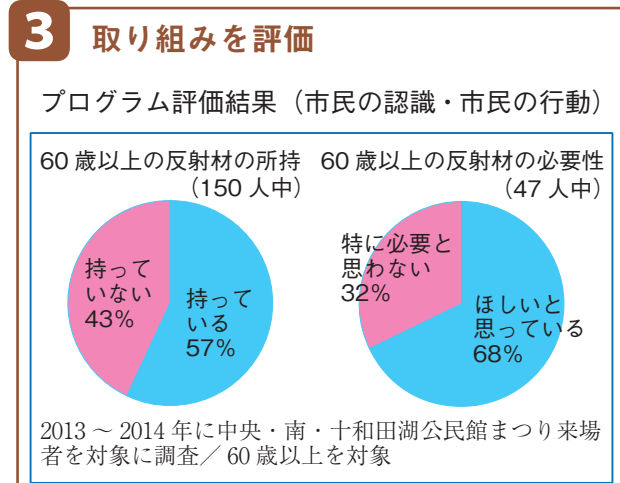
交通事故予防対策部会 取り組みの一例「反射材利用促進プログラム」

1 実態把握と目標設定 反射材利用促進プログラム

課題(根拠)	歩行中の死亡事故が多く、特に65歳以上に多い		
目標	歩行中の死亡事故件数を減らす		
プログラム内容		結果・成果	
事業者	対象	認知や知識の変化(短期)	態度や行動の変化(中期)
交通安全母の会、警察署、町内会、市役所など	65歳以上の歩行者	【指標】反射材を利用したいと思う人	【指標】反射材を持っている人
		【測定】市民アンケート	【測定】十和田警察署「交通事故概況」

65歳以上の歩行中の死亡事故が多い状況から、反射材の利用促進に取り組みます。

■交通事故予防対策部会の構成団体
 自転車自動車商協・交通安全母の会・老人クラブ連合会・三小学区青少年健全育成協議会・町内会連合会交通安全部会・セーフコミュニティとわだをすすめる会・交通安全協会・警察署交通課・市土木課・市まちづくり支援課



2 関係団体が連携して対策を実施

交通安全母の会、警察署、町内会などが協働して、高齢者世帯を訪問し、交通事故の注意喚起と反射材の普及を行いました。

これらも「セーフコミュニティ活動」です



湯っこで生き生き交流事業の口体操
 病気以外の死因で2番目に多い不慮の窒息。特に高齢の男性に多く見られます。体力維持の活動に口の体操を取り入れて予防しています。

十和田西高校少年消防クラブ
 高校生の消防クラブが発足し、市の総合防災訓練に参加しています。若い世代も活動の主体となり、防災意識の広がりを見せています。

出前講座をします!

セーフコミュニティとわだをすすめる会

町内会など地域に出向いて、セーフコミュニティの理念や転倒防止、交通事故予防などの普及啓発活動を行うボランティア団体です。

問まちづくり支援課 ☎ 6777

